

京みやげは絆を育む

井筒八ッ橋本舗

【京都市・東山区】

IM コンサルタント代表 平松陽一

100年続く
「老舗」
に学べ!

箏曲と八ッ橋

箏曲八橋流（後世の生田流）の開祖八橋檢校（1614〜1685年）の代表作『六段の調』は、今日においても箏曲初級者の入門曲として親しまれている。その演奏は上級者にとつても奥深さがあり、名曲中の名曲と言われている。実は、箏曲と八ッ橋には深い関係がある。

檢校は、茶店の主人岸治朗三にお櫃の残り米を堅焼煎餅にすることを教えた。後に琴の形に仕立てた堅焼煎餅を「八ッ橋」と名付けて売り出したところ、大流行したと伝えられている。



代表取締役社長 津田純一 氏

株式会社井筒八ッ橋本舗 創業文化2年（1805年）（代表取締役社長津田純一）の歴史は、この八ッ橋と共にある。今日では京みやげとしての圧倒的な知名度を誇るのが八ッ橋である。

みやげ品は、進物（手みやげ）と旅みやげに分かれる。進物は、手軽に喜んでいただけるものであり、旅みやげはその土地の旅の思い出と共にお届けするものであり、八ッ橋は後者に属する。

こんな話がある。修学旅行で京都に来た生徒が、八ッ橋を買って帰った。それを父母や祖父母にみやげとして渡したところ、大変感激してお礼の手紙が何通となく来る。中には、仏壇に供えて涙を流したという便りをいただくこともある。

みやげには、人と人の心をつなぐ絆としてのありがたさがある。特に京都の八ッ橋は、親子何代にも渡り、共通の話題が作れるところがあ

る。ここに、八ッ橋という商品の不思議さがある。

井筒茶屋から始まる

井筒八ッ橋本舗の初代佐兵衛は天明8年（1788年）の生まれであり、赤穂から塩・乾物を京都に運ぶ仕事をしていた。そうこうしているうちに、井筒茶屋に奉公するのである。やがて、精勤さが認められ、のれん分けを許され、料理屋を始めることとなる。当時から、井筒では料理を出す一方で菓子類を扱っていた。その中の一つの商品が八ッ橋であった。今でも井筒八ッ橋本舗は飲食部門を併設している背景がここにある。

ちなみに、現祇園本店北座周辺、川端四条の近辺には7つの芝居小屋があつたが、一軒二軒と閉めることになる。最後まで残った南座と道路を挟み北座があるが、ついに道路拡張の関係で明治26年に廃座することとなる。このようなことから、長きに渡り井筒八ッ橋本舗は芝居と共に歩んできたと言える。芝居を觀

て、帰りに食事をする。そしてみやげを買って帰っていただくということから発展してきた。祇園本店北座には、多くの芸能人が足を運ぶ。そのことが新しい菓子を創る上で参考になっている。水上勉の名作「五番町夕霧楼」の主人公に因むつぶあん入り生八ッ橋「夕子」、初代中村鴈治郎に因む夕霧太夫の「夕霧」などである。

名継ぎは一生

さて、現社長はまだ7代目を名乗っていない。それは父親の津田佐兵衛が6代目であるからだ。

井筒八ッ橋本舗では、呼称を変えるだけでなく、戸籍から変えるということをしている。そして、一度襲名した以上は、終身佐兵衛を通すこととなる。

著者は、老舗で名前を襲名するということを何度となく見てきた。その多くは、戸籍を変えずに対外的な呼称を変えたいというものだ。戸籍まで変えてしまいうという当店のようなり方は、京都でも珍しいものである。そ

株式会社 井筒八ッ橋本舗

〒605-0079

京都市東山区川端通四条上ル常盤町178

井筒北座ビル

TEL : 075-531-2121 FAX : 075-531-2124

URL : <http://www.yastuhashi.co.jp>

E-mail : izutsu@yastuhashi.co.jp



井筒八ッ橋本舗 祇園本店 北座

ここに名前を守る、店を守る津田家のあり方が見えるのではないだろうか。

現社長津田純一は、昭和24年の生まれであり、大学で食品工学を学び、不二家に入社、商品開発、生産管理、店舗運営などを体験して、井筒八ッ橋本舗に戻ることにした。食品業である不二家に就職したことから、最初から自店に戻るつもりで就職したのですかと聞いたところ、そ

の気はなかった、どっちでもよかったということである。そのきつかけとなるのは、6代目から言われたことにある。

サラリーマン生活で役に立つたことは、社員の気持ちがかかるようになったことではないかということだ。

ただ、それが裏目に出たことがある。それは、自店に戻ってきてから、工場改善や労働条件を社員のためという思いから強

力に進めようとした。そのために、幹部と当たることもあった。しかし、社員は当然自分についてきてくれると思いが、ある日休憩室で休んでいる社員の言葉が壁越しに聞こえてきた。それは、「戻ってきたボンは、なんや分らないけれど、これまで自分や社長が苦勞をして進めてきたことを頭ごなしに壊そうとしている。このままでは、この店はおかしくなってしまうし、我々もやがて辞めさせられてしまうのではないか、その前に皆で辞めてしまおう」という内容の話であった。

これには大変ショックを受けたようであった。ところが、現社長は、「この言葉があったからこそ今がある。」と言い切る。更に、これは天の声かもしれないも思っている。

社員と共に危機を救う

そんなことがあつてから、社員と共に考え、お客様のためという意識を強く持ったということだった。これが当店の最大の危機を救うこととなる。

阪神淡路大震災の前年（1994年）に純一は社長に就任することとなる。

若社長は、更に業績を伸ばそうと、その年の9月に新工場を立ち上げる。当然のことであるが、大量の借り入れをすることとなった。

やつと工場が動き出したという時に、1995年1月17日（火）に阪神淡路大震災に遭遇することとなる。観光客の足がバツパリ止まってしまい、工場の稼働率は大幅にダウンしてしまうのである。

このときに、誰言うこともなく社員が高速道路のサービスエリアで朝早くから工場のチラシをバスの運転士やガイドに配り、売店を兼ねていた工場へと誘導したのである。

100年続く 「老舗」 に学ぶ!

やがて、バスが1台、2台と工場に立ち寄るようになり、これが当店の危機を救うこととなるのである。現社長は、この時のことを思い出すと、今でもつい涙が出てしまうと話す。

今日においては、年間5、6万台のバスが工場に寄り、20万人以上の人が来ている。著者がこれまでに老舗の危機とい



歌舞伎銘菓「夕霧」

井筒の心

今日も 元気で
伸ばそう 井筒味のチェーン!!

☆

ハイと こたえて すなおに早く

☆

オ おはようは まず こちらから
ア ありがとうと いわれるように いうように
シ しあわせは みなで わけあおう
ス すみませんは いさぎよく

☆

サービスとは
シンセツ
スマイル
センス
ソウジ

☆

人の心にあたたかさをとりもどそう

しばめいもく
暫し瞑目

井筒八ッ橋本舗の社是

う場面を通じて感じるの、表面的なビジネスモデルで乗り切った事実は無いということだ。「人の絆」が救うのである。

老舗同士の絆が商品をつくる

井筒八ッ橋本舗では、京都老舗ならではの商品開発を行っている。

創業天保元年（1830年）

本田味噌本店とは、「夕子白みそあん」を共同開発した。この老舗同志が共同で商品開発をすることは意外に難しいことである

ことを、著者はコンサルティング業務を通して体験してきた。その殆どは失敗しており、成功事例は無いに等しい。一見成功したように見えても、やがて取り分を巡って混乱が生じるということがある。特に老舗は歴史があり、個性が強すぎるためである。

現社長は若い頃からこのことを身を以て学習してきた。

そのために、日頃から一人での単独行動だけではなく、何人かの人達と動くということを中心としてきている。

著者は、仕事の関連で本田味噌本店の代表者本田茂俊氏を知っているが、老舗のご主人らしく物事を落ち着いて考える人物であると記憶している。このようなオーナーの人柄が、共同開発には大切なことなのである。

現社長は、歴史と自身の経営をふり返り、「利益より永続を...もつと美味しいお菓子を」と言う。それは、利益が必要ないという意味ではない。利益は、お客様に、商品に、社員に、のためのものであるという考えがあるからだ。

現社長は、あと10年は頑張つて仕事をしたいと言う。

そして、真にお客様・従業員のことを分かった人を見極め、後継者になつてもらわなくては、と結んでくれた。



ひらまつ よういち 玉川大学工学部経営工学科卒業後、経営コンサルティング活動（会社経営研究所）を経て、1Mコンサルティング代表となる。現在、経営コンサルティングとして、指導業務、教育、講演を行っている。コンサルティング活動の傍ら、企業に入り管理職を兼務。主な著書『この老舗に学ぶ』（フォレスト出版）、「必ず売れる営業マンになれる」『営業幹部のための指導力増進講座』（以上すばる舎）など多数。